



Title	ゴキブリ駆除について
Author(s)	遠藤, 齊彦
Citation	makoto. 1973, 2, p. 4-5
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86280
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

ゴキブリ駆除について

一般にはアブラムシと呼ばれているが、ゴキブリという名前は「御器かぶり」から転化したもので学術用語として慣用されている。ゴキブリは直翅目（バッタ、コオロギなどの仲間）の昆虫で、日本では約二十種類余りが知られているが、殆んど野外の落葉の下や、朽木の中で棲む種類が多く、大阪では衛生害虫として屋内に侵入し、被害を与えるのはチャバネゴキブリ、クロゴキブリ、ヤマトゴキブリの三種が最も普通である。近時暖房事情の好転の故か、ワモンゴキブリ、トビイロゴキブリなどの南方系のゴキブリが北九州は勿論本州の一部にまで見られるようになってきた。被害としては、ハエと同じように各種の消化器系伝染病（赤痢、腸チフス等）の病原菌を運ぶので、蚊とハエと並び第三の衛生害虫として注目されている。ゴキブリの食性は雑食性で人間のたべるものならなんでもたべ、又水を好んで飲み、餌が不足してく

ると、本の背表紙の糊を喰べて本を台なしにすることもあ

る。
ゴキブリ類は孵化当時は群居性がある。ゴキブリは夜行性の傾向があり、人気の静まった頃、台所、ガス台、押入等から水と食物をあさる。

ゴキブリの駆除については次表をみていただきたい。なお大阪で普通にみられるものとして、チャバネゴキブリ、クロゴキブリ、ヤマトゴキブリがある。

大阪府としては昭和三十六年より毎年六月をゴキブリ駆除月間として駆除意識の普及に努めてきたが昭和四十八年度はゴキブリとねずみを駆除二大目標として、大いに駆除意識の昂揚につとめたい。

明るい住みよい生活をするためには必要欠くことのできない条件として府民こそづつこの運動に参加していただくようお願いする次第である。

大阪府衛生部環境衛生課

主幹兼環境衛生係長

遠藤 育彦

ゴキブリ駆除要領

実施対象		使用薬剤	使用方法	注意事項	基準
木造住宅	台所	フェニトロチオン ダイアジノン バイテックス等	(乳剤)	(1)手や食物、食器等にからぬよう注意する。 (2)乳剤は稀釈後、ただちに使用する。	10倍液 50ml/m ²
	食堂	これらのスプレーが市販されているので利用してもよい。	(残留塗布法) 水屋、調理台、棚、戸棚、引出しの側面、裏面、冷蔵庫のうしろ、野菜貯蔵所附近、流しの附近等に左記の薬剤を刷毛又は筆で巾3～5cmの帯状、格子状に塗布する。 月に1回位実施するとよい。		
	調理場		(残留噴霧法) 上記の場所に左記薬剤を噴霧する。	食物や食器には直接かからぬよう十分注意し、新聞紙等でおおうこと。	
鉄筋住宅	天井	フェニトロチオン ダイアジノン バイテックス DDVP等	(油剤)	(煙霧法) 左記の薬剤を煙霧機(三兼機、スイングフォグ、インセクトフォガー等)を使用して実施する。 実施後少なくとも1時間は密閉。 月に2回位実施。	1戸当り 400ml
	ダストシュート				4階建ダストシュート 1本当り1ℓ
備考	台所	フェニトロチオン ダイアジノン バイテックス等	(乳剤)	木造住宅の残留塗布、残留噴霧の欄に同じ	同 左
	調理場				同 左
備考	毒餌	ディブテレックス等を主剤とした毒餌が市販されている。	(毒餌法) ゴキブリがよく出る場所に置き、食いが悪いときは食用油を少量混ぜるとよい。	この方法だけでは完全な駆除は望み得ないから上記方法とも併用がよい。	
	トラップ	ゴキブリ捕集用のトラップが各種市販されている。	(捕殺法) ゴキブリをよく見かける所におく。		